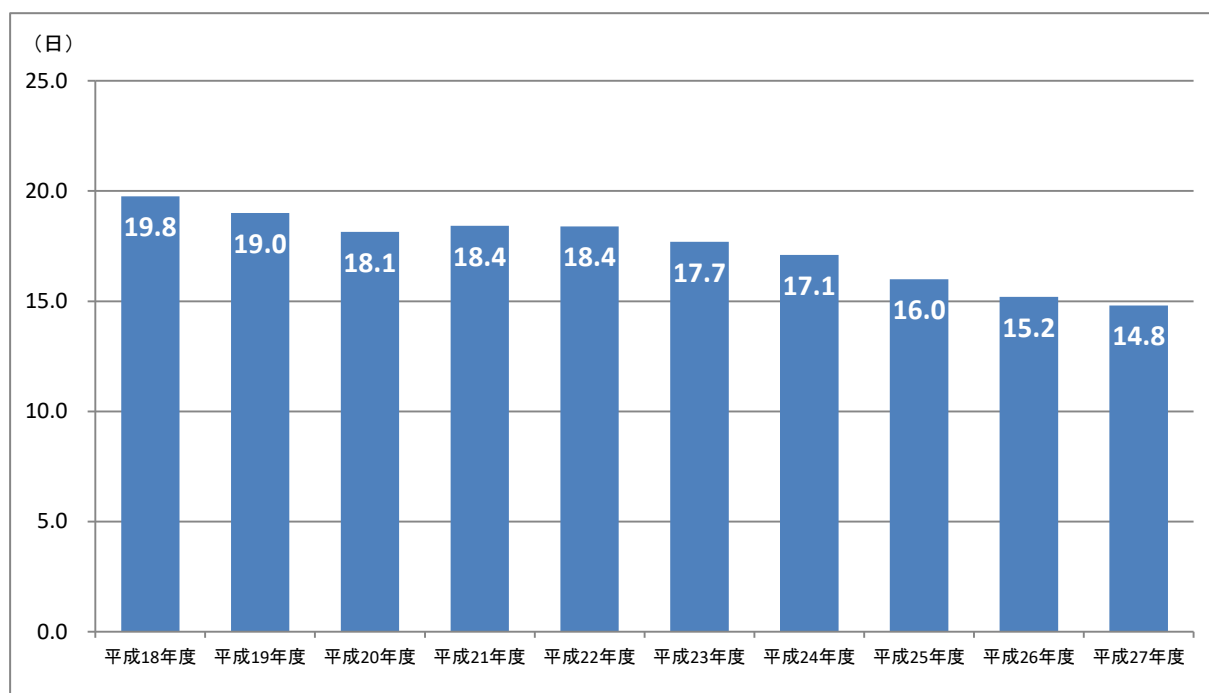


2 9 . 平均在院日数



病床稼働率と同様に病院の経営指標の一つである平均在院日数は、どの施設においても重要な指標として、注目される項目である。一般急性期病院は、在院日数 18 日以内が求められ、在院日数の短縮傾向は進んでいる。

当院においても平成 23 年度以降、緩やかに短縮しており平成 27 年度は 15 日以内となった。しかし、未だ、他の私立医科大学病院、近隣の大病院と比較しても長い状態で、DPC 算定の機能評価係数における効率性指数が低く抑えられている。

急性期病院としての役割を果たすべく、クリニカルパスの利用を推進し、医療の質を保障した上で在宅復帰へ向けた取り組みを進める必要がある。

データ提供 医療事務部入院医事課